

私が夢見るまち

それは馬のいる都市です。

小学生のころ馬の描かれた児童文学を読み、家の庭でポニーを飼う夢を持ちました。

旅行先の観光乗馬や、都心から離れた乗馬クラブで馬に触れる機会を得て、その思いはますます強まりました。乗馬経験が浅くまだまだ馬の未知の世界が一杯ですが、馬と接し、馬同士が接しているのを見てみると、とてもほっとし、人間も馬のようになればよいのに、と思います。馬はまるで言葉を話さない人間のようなようです。いえ、人と同様に一頭一頭に個性があり、馬同士にも相性がありますが、言葉を話さなくても **Yes, No** を体で表現し、人に教えてくれます。心は **No** でも、**No** と言えない人間、思ってもいないことを口にして保身や利益を謀る人間、自分と人との境界が分からず入り込みすぎる人間、私たちとは大違い。馬は接する人の気持ちを敏感に感じて静かに寄り添ってくれ、馬の近くにいるだけでとても落ち着きリフレッシュされるのです。

そんな馬達に、ストレスの多い、人と人との関係が希薄になりがちな、また同時に閉ざされた少数の人間関係に閉じ込められ追いつめられがちな都心でこそ、私たちは接する必要があるのです。

多くの人が馬と身近に接するために、都心で馬を飼うにはどうすればよいか、郊外の乗馬クラブから帰る度に考えました。既存の乗馬クラブは平屋使用であるため、都心での土地確保が困難でした。そこで考えたのが大規模マンションと馬場との融合です。莫大な建設費のかかる大型マンションの建設費用の一環として馬小屋と馬場を用意すること、馬の世話や調教スタッフが、マンションコンシェルジュの仕事も兼任することで人件費を効率化し、騎乗料で馬の管理維持費の採算をとります。

以下に、実現へ向けての詳細を列挙します。

- ・マンション 1 階に、駐車場 10 台-15 台程度のスペースを確保し馬小屋（厩舎）とする。水洗できるよう、給水、排水設備を設置する。東京都世田谷区のビルの 1 階でポニーとミニチュアホースを飼育しているので参考にする。

・安全性とスペース面を考慮し、サラブレッドより丈夫で小型な大人も乗れるポニーと、子供用のミニチュアホースを**6-8頭**飼育する。マンション住人は深夜以外は自由に厩舎に出入りできるようにする。

・厩舎には見守りカメラを設置し、マンションロビーのディスプレイや管理人室、あるいはリモートで人と馬の動きを見守り、危険があればすぐに対応できるよう、放送設備も設置する。馬の急な動きや人の動きを検出する専用ソフトを開発し、咬む、蹴るといった動作を自動検出、警報できるようにして、安全性を高める。

・地上に直径**8-10m**の排水性の良い丸馬場を作る。風に舞う砂ではなく、近年利用の増えているウッドチップやゴムチップを使用する。ここで初心者の練習や放牧を行い、マンション住人や近隣の人が馬に接する機会を作る。

・馬専属のスタッフ**1-2名**に加え、厩舎清掃や引き馬のできるスタッフ**1-2名**が、マンションコンシェルジュを兼任することで、人件費上昇を防ぐ。低層階にスタッフ専用の住居を提供する。

・馬糞とおが屑は近郊の農家に肥料として提供する。

・馬の**1**か月の飼料代(**1.5万円**)と蹄削費(**1.5万円**)、馬専属スタッフの人件費は、騎乗料により賄えるよう料金設定し、余剰分は鞍などの馬具、予防注射代に充てる。

試算としては、ポニー**1頭 30分 3000円**×**2回**×**24日**-**30000**=**114000円/月**。
5頭 57万円。

ミニチュアホースは半額。

ポニー**5頭**が乗せられるお客さんは、月に一人一度として(**2~3**)×**24**×**5**=**240~360**人。

・乗馬雑誌に広告を載せ、月**1-2回**の騎乗権を付けて先行予約を受け付ける。騎乗希望世帯数に合わせて、馬の飼育頭数を調整する。所有者しか騎乗できない自馬ではなく、皆が乗れる共有の馬の飼育を基本とする。

- ・一般の乗馬クラブは平日の空きが多く、土日が混雑するが、マンション内に併設し移動時間を省くことで、平日早朝や夕方の乗馬が可能となり、騎乗予約が分散される。

- ・低層階には、乗馬人口で増加している 20 代後半から 30 代の女性を対象としたワンルームの賃貸を用意する。

- ・丸馬場や厩舎の様子が見えるようにキッズルームとデイケアセンターを併設することで、馬を見に来た人が子供や高齢者と間近に接しやすい環境を作る。時間の融通が効きやすい独身世代は、専門職以外に育児、介護サポート人員として大切な存在となること、また独身世代にとっても将来の生活の一部を垣間見て将来に生かせることから、馬を介して、入居者間の世代を超えた交流の敷居を下げる。

- ・屋上にクッション性の高いゴムチップを敷き詰めた広い馬場を用意し、エレベーターの直通運転でポニーを移動させる。丸馬場で初心者が練習している時にも、経験者は屋上で富士山やスカイツリーを眺めながらの騎乗が楽しめる。騎乗料による収入も増加し、馬の運動にもなる。

- ・近隣の自然公園や河川敷に経験者を対象とした外乗を企画する。

- ・近隣の幼稚園や小学校に出張し子供たちに馬に親しんでもらう。障害者を優先したホースセラピーを行う。

- ・地方の観光乗馬施設と提携し、観光シーズン以外に定期的に馬を入れ替え、馬が広い放牧地で休養できるようにする。

いくつかの牧場を訪問して、学校や企業ごとにカラーがあるように、牧場ごとに馬達にもカラーがあるように感じます。皆がしっかりとした態度で優しく接し、馬自身の自由が守られている牧場では、馬もみな、多様で自由な個性を保ちながら素直に人に接してくれます。私たちと接した馬達は、どのようなカラーになるのでしょうか。そして馬達と接した私たちは、自分自身との関係、人と人との関係を見つめ、馬のようになることができるのでしょうか。